

## 2009 夏 中体連鹿児島大会に出場するまでに

北星学園女子中学校  
バスケットボール部  
監督 白川部 籌夫

「どんな時だって捨てたものじゃない」

「今年の北星は、勝てない。」辺りでの大方の予想をよく耳にしました。監督の私自身、全国に行けるような力量は備わって無いチームだと見ていました。ただ、指導者としては、このチームをどこまで成長させること出来るかが大きな役割だと考えていました。

4月から続くチーム内のゴタゴタで練習に参加できない選手、練習出来ない日、そして将来主力になるであろう選手達の退部など問題は山済みで、私に気合の入ったバスケットボールの指導させてくれない日々が続いていました。ある学年にはバスケットボール以前の問題が多く、コートに立つ資格さえ疑うような言動も多かったし、この選手達は本当にバスケットボールが好きなのだろうか？なぜ北星に来たのだろうか？と疑問に思うことも多くありました。その反面、どんなことがあってもコツコツとまじめに努力し続ける多くの選手達の姿も目に留まっていました。この選手達のためにも指導者としてどうしたらいいのかと悩んでいました。

私が常々考えている「チーム」とは、様々な個性があり、性格があり、生活があり、生育暦があり、家庭があり、それぞれ背景の違う選手達が目的を一つにして、一つ屋根の下に集い、夢達成のために仲良く手をつなぎ切磋琢磨するもの、これが「チーム」だと思っていました。だからいろんな選手がいて当たりまえで、それをまとめるのも私、指導者の仕事だとも思っています。

北星で勝ちたいと夢を持って入部してくる選手達にその環境を準備出来ないことが一番辛く思えました。今年は、練習もままならない状況で中体連に突入し、あっという間に過ぎた感じがあります。一年が過ぎようしている現在も奮闘中ですが、本当にあの状態でよく全国大会まで進むことが出来たと思っています。

その中で全国へつながる力になったのは、一つはじっと辛抱して私と共に夢を追い続けてくれた三年生の成長です。もう一つは、三年生から学んだ多くの選手の誠意、多くの良識ある保護者、卒業生、教職員の心温まるご協力を得たことだと思います。

これらの皆様に、心から感謝したいと思います。

7月、勝てる状態でない。気が遠くなるように長い道のり。自信を持たせてやることの出来ないまま札幌地区大会を迎えることになりました。「この瞬間だけでもベストで」と思いつつ戦いました。その結果、何とか恵まれてベスト4に残ることが出来ました。

決勝トーナメントでは三試合とも気を抜けない厳しい試合になりましたが、やはり三年生の頑張りが全道大会出場を引き寄せたと思います。

11点差で清田戦に破れた敗因は、終盤のインサイドプレーを守れなかったことが大きな原因と思っています。この次に向けて修正しなければならない一つでした。

8月、全道大会、ここまでこれた事は幸せなことだと思つづく感じていました。

組み合わせ表を見て、二日目の江別第二戦が大きな山だと思いました。今のチーム状況ではまともに当たれば勝ち目はないと考え、ポイントを絞り選手達に説明し準備しました。この一戦が全国の扉を開けるかどうかの鍵だと思っていたし、勝つことによって2年連続全国大会出場の可能性を大きくすると思っていました。お互いにその日の2試合目、つまり、疲労度は5クォーターから8クォーター目に当たります。案の定、開始直後から厳しい試合になりました。互角の戦いになり気の抜けない緊張感が続いていました。4(8)クォーターに入り、わずかな心の隙をついて選手達が動き出しました。チームの練習を信じ走り続けてきたコツコツ組の成果がここに現れたと思います。流れは、1・2・3クォーターまで辛抱し、4(8)クォーターで勝負した結果になりましたが、私の頭の中では、1(5)クォーターから準備した計画は順調に進んでいました。終始事前に準備した計画通りに戦い、終わることが出来たと思っています。この戦いに勝てたことは非常に大きく、北星にとって特に印象に残る会心の試合であったと思います。さすがに江別第二は鍛えられた素晴らしいチームでした。

セミファイナルの網走第二中との試合は、全国がかかっているとは言えのびのびと終始自分達のバスケットボールが出来た試合だったと思います。不思議なことに大会に入ってからチームが試合上手になっていくのが目に見えていました。また、昨年の全国を経験している上級生のモチベーションが高くなってきているのも手に取るようにわかりました。

ファイナルは、「きたえーる」世界選手権でレブロンジェームスやウェードがプレーしたメインコートを与えられました。その名誉あるコートで自分達のバスケットボールを表現できる喜びに感謝しながら選手と共にコートに入りました。相手は清田中学、お互いに知り尽くしている相手でありました。試合の大きな流れは、出だしから北星でリズムであったと思います。チーム事情から考えても良すぎる出来でした。ディフェンスも頑張っていたし、よく足が動いていました。ゴール下の主導権も握っていました。試合は優劣付けがたく、最後まで見ごたえのあるものだったと思います。決勝の前のミーティングでは、「もうすでに全国も取った、この決勝戦はプライドの戦いだ」と選手達を奮い立たせていました。実にそんな戦いをしてくれたと選手達を誇りに思っています。劇的な(北星にとっては悪夢のような)3Pシュートは分かっているが止められなかったこと、頑張っているが

打たれたこと、ミスディフェンスでないのに打たれたことを考えると、敵ながら、あの選手を認め、立派だったと評価したいと思います。敗れはしましたが、延長戦まで戦いお互いに中学生らしく死力を尽くし、2点差でした。あれだけ多くの観客を興奮させ、喜んでいただいたことを嬉しく思います。2009年度の全道中体連を締めくくるに相応しい最高の試合が出来たと思っています。また、2年連続9回目の全国大会出場権を得ることが出来、役員大会関係者、保護者、OGをはじめ多くの方々に心から感謝したいと思います。

全国大会は、8月19日（水）から22日（土）まで鹿児島市、薩摩川内市で行われました。

体育館は冷房が効き、暑さを感じることはありませんでした。ただし、一歩外に出ると肌を焼くような大変な暑さでした。おまけに名物の桜島からの火山灰で車の上や路上は真っ白で、コンタクトを入れている人は大変そうでした。

8月20日（木）

一試合目の関東ブロック2位、埼玉栄との戦いは、まったく手も足も出ない状況でした。埼玉栄は2007年度、準優勝校で今回は関東2位で出場している強豪チームでした。運動能力も高くファンダメンタルのしっかりしているチームです。強く守られると今の北星では攻め込むことが出来ない状態でした。互いにオールコートマンツーマンで試合に入りましたが、様々な点で大きな差を見せつけられた試合でした。ただ、#5上村選手が一人気を吐き、21得点をあげ頑張りました。

二試合目は、東北ブロック1位の鶴岡第二との戦いでした。山形県予選を2位で通過し、東北ブロックで1位になったチームです。狙いはこのチームと絞っていましたが、東北勢らしく、実にしぶとく強い相手でした。北星のスカウティングもしっかり出来ていて、前の試合で活躍した#5上村選手をしっかりとマークしてきました。当然そのための練習もしてきたつもりでしたが、機能せずに終わりました。相手の#4は165cmとけっして大きい選手ではないが運動能力が高く、得点力もあり、この選手にかき回された感じがしました。決勝トーナメントに進めなかったことは残念に思います。

作戦の立てようのない力の差を感じ、大差で敗れたこの2試合は、指導者としての恥ずかしい試合だったと猛省し、チーム作りの大切さを痛感しています。

最近、さまざまな体育施設でシュートを打っている子供達の姿を見ることが多いが、それ自体はよしとして、あなたの所属しているチームはどうなっているのだろうか？チームワークはどうなっているのだろうか？と心配になる事が多い。

好きなのは、かっこよく見えるシュートであってバスケットボールではないのではないかと。

なぜなら、バスケットボールは一人では出来ないからです。

チームやチームメートをおろそかにしていませんか？

一番にチームを大切にし、チームワークを大切にし、チームメートを大切にする心を養い、その上で個人技を高め、レベルの高いチームワークを目指してほしいと強く願います。バスケットボールをとおり、チームという社会の中で「正常な人間関係」を学ばせ、現子供達の誤解を招く「単語社会」を心を伝える「言葉」に替えること、「コミュニケーション能力」を高めることも大切な指導の一つだと感じています。

今年度、北星が全国で思うように戦えなかった大きな要因はそこにあると考えます。

私が今さらながら、チーム作りの難しさを体験し、悩みを持って過ごした一年でもあり、チーム作りの大切さを痛感し、学んだ歳でもありました。

全国の多くの指導者と交流し、再会を約束しながら鹿児島を後にしました。

この1年、多くの方々の励ましをいただき、終えることができますことを嬉しく思います。指導者として、「どんな時だって捨てたものじゃない」を心に刻みながら、皆様に心から感謝したいと思います。